56

へ13
1961
56

李先生遺作夢

遠
1.61
26

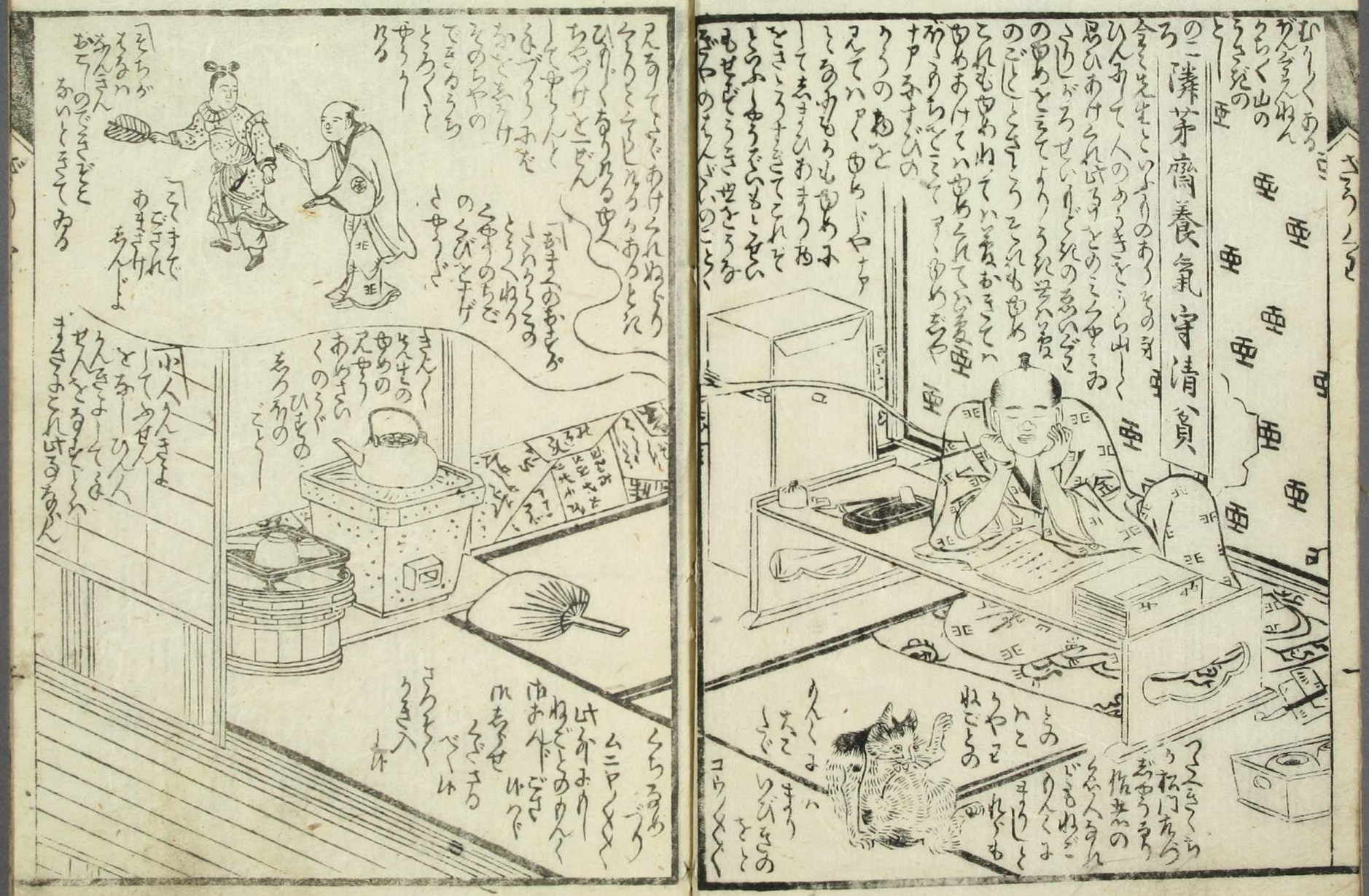
3
1961
56

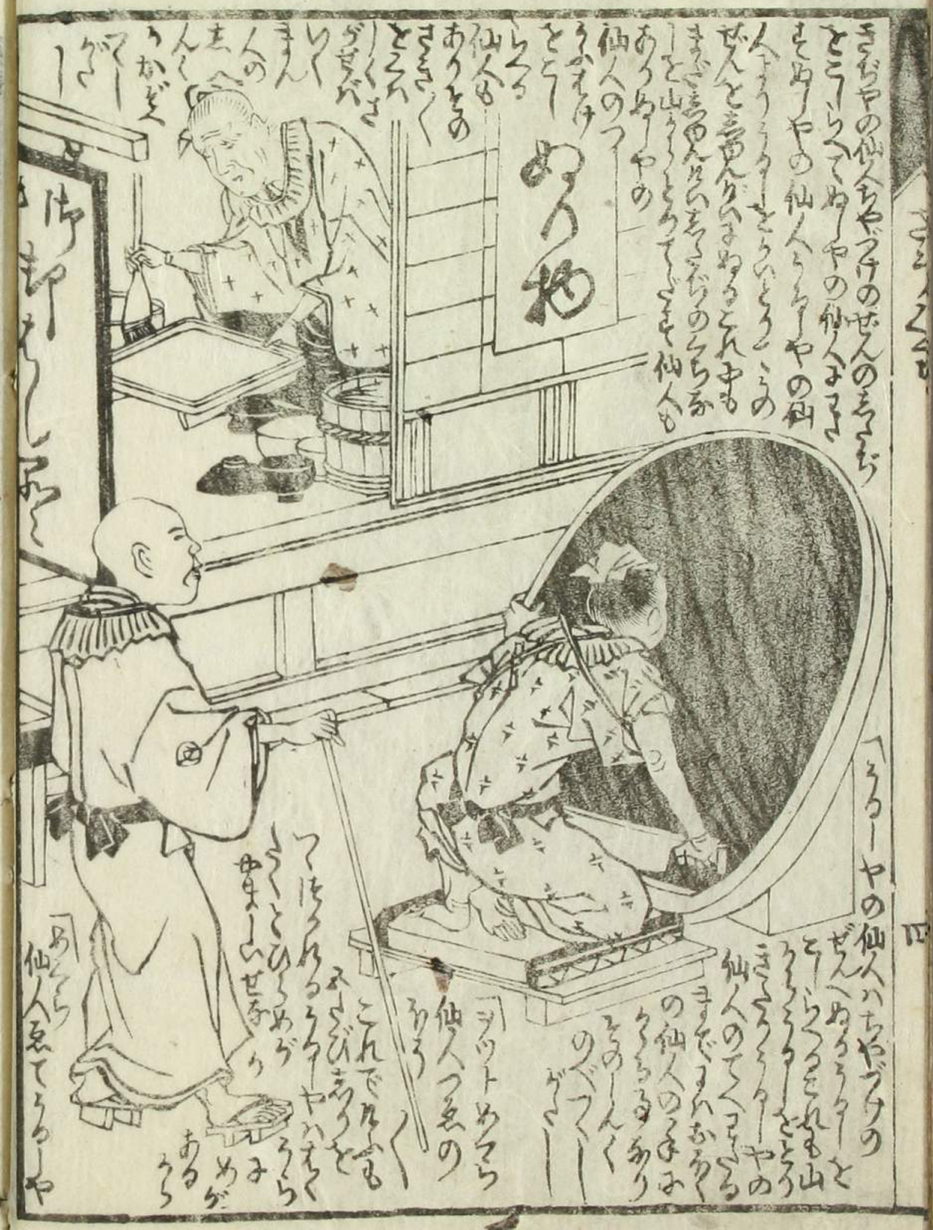
自叙

李紳憫農詩曰。鋤禾日當午。汗滴禾下土。誰知盤中飧粒々皆辛苦。宜哉盤中飧粒々皆辛苦。一膳の水漬の飯と雖ども一粒布一寸と雖ども何ぞ謾に用んや。其恩須弥よりも高し。況衣食器財屋室人間一生日用の萬物を創衣一如て。幾萬人の辛苦を負ん量ぐ。旣是偶李紳が詩を感ずるに。おもう三巻の稗史小説を作り。其大意を書して序とすると而已

寛政六甲寅孟陬

山東京傳題


のこ隣茅齋養氣守清貧



ひやくしやうの仙人いちやづけのの
きいはるりうのあのたんをつくらん
とまづたんのこれをすくはさま
をまくしまでみるそうけとうるい
ろをとけたんをるまでのしん
くわさうにしてぐ〜
又ちやつこの仙女ちやづけのお
をみるまるちやをつむこれも
ちやみるまでのしんくりう
ぐりうー ぢぞ
「ちやつこの女中みこれて
ふるまるぞちやの本ぶこれ
つるさそくうふんさん
じやチンツチヤン〜
ふぐこちや
つこの仙
女ごう
せんを
うく
「えゆく
らうちく
させん
ゆり
ぶりわい

こちやこの
ちやつく
ちるぐで
すむ
ようう
くと
らうの
のあ
ふぐ
ちやの
てくて
ようう
「おさう
さん人
くんぐう
のちうさま
めどうを
ちるゆうる
ざるを
ゆつて
まぐ〜
ちるさんふ

あそひいて
つるやさえ
まとふろう
ふくろう
川柳の
めい
ぢ
あて

おけやの仙人井戸ぐいをらくらくるこれわりをさいさうちやをかうそるあの
耳おそへつよ井戸をあるつめりありそのはのあまりうそくよをけこれうをけあどをこらる
仙人のおりこらちゆめんまつけていちくいろくぐをそろくるまぐくくのりのをきるまるいくとこああげざるひあさ什とひくちぎとぐて紀ふいまさことすといさいてのでさきあくりどかどくくれこなぎまんのをぞあの

いしやの仙人ちやのづけのかをそをおろいのちちんをらくらる

どとく大さんぞあり
「ひりじいせいりうりゲよいいーやのぐんのうりゲさうまいりものゆうみうろうゆうさ
さうさんやの仙人へうほいを
うほいのうへわうへわまぐのうへわうをうをうよりまーぶあまられでぐろ
うちやの仙人ちちうさんのトとあぐちぶうちへをうちうるこれもゆうより行をきうりどてそんとふーくこをすれてうらりうまれうり山ようりちぶをとうきうりてうへみひくうちて
ぐろうもそのさきぐくを思へいく万人のうまよりりるるゆうきれねゆうり

女仙人井戸とり

井戸とり

金

仙

京傳作

口上

此度山東京傳後加こたび
こ入初こを出しいろく元ん
ぐ仕入仕下直の品ま
てこれこそこを入は信
れ用ひまわ分れ出ま
ユ丈仕ゝ何とぞ
内ひいきされ元五
ゐとく幸希上ま

江戸京橋銀
座一丁目
京屋
傳蔵